

平成 32 年度 工学部工学科総合型選抜入試（AO 入試）について（予告）

平成 30 年 7 月 5 日公表

平成 31 年 2 月 22 日更新

工学部では、高等学校等での活動報告書などを基に、主体性、表現力、工学に対する勉学意欲や関心などを多面的に評価し、一般入試・推薦入試とは異なる能力・適性を有する入学者を選抜するため、総合型選抜入試（AO 入試）＜平成 31 年度実施＞を導入します。

1. 募集人員

学 科	主専攻プログラム	募集人員
工学科	機械システム工学プログラム	4 人
	社会基盤工学プログラム	2 人
	電子情報通信プログラム	4 人
	知能情報システムプログラム	3 人
	化学システム工学プログラム	4 人
	材料科学プログラム	3 人
	建築学プログラム	2 人
	人間支援感性科学プログラム	2 人
	協創経営プログラム	3 人

2. 出願要件

平成 32 年 3 月高等学校（中等教育学校を含む。以下同じ。）卒業見込みの者（（注）の者を含む。）で、次の各号に該当するものとします。

- (1) 人物・学業成績がともに優れ、工学の学習に熱意のある者
- (2) 高等学校等の内外において主体的に活動を行い、その経験を通して獲得した実力・能力を自ら推薦できる者
- (3) 英語の外部検定試験を受検し、別表に示すスコア・級以上の成績を修めた者
- (4) 合格した場合は、入学することを確約できる者

(注)

<ul style="list-style-type: none">平成 31 年度中に高等学校を卒業した者及び卒業見込みの者平成 31 年度中に特別支援学校の高等部を卒業した者及び卒業見込みの者平成 30 年度中に高等学校あるいは特別支援学校の高等部を卒業した者平成 31 年度中に高等専門学校の第 3 年次を修了した者及び修了見込みの者文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設を平成 31 年度中に修了した者及び修了見込みの者平成 31 年度中に高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者
--

別表 出願要件 (3) において基準となる英語外部検定試験のスコア・級

資格・検定試験名	スコア・級
ケンブリッジ英語検定	120
実用英語技能検定	準2級
GTEC (4技能) (注)	690
IELTS	4.0
TEAP	135
TEAP CBT	235
TOEFL iBT	42
TOEIC L&R/S&W	625

(注) 平成29年度に受験したGTEC CBTのスコアは510とします。

※ TOEICについては、L&R及びS&Wの両方を受験してください。基準となるスコアは、S&Wのスコアを2.5倍にしてL&Rのスコアと合算したものとします。

※ 平成29年4月以降に受験した試験に限ります。ただし、実用英語技能検定については、二次試験を平成29年4月以降に受験した試験とします。

※ ここに記載していない資格・検定試験は対象としません。

3. 選抜方法

大学入試センター試験を免除し、書類審査、小論文及び面接での評価を総合して行います。

なお、各主専攻プログラムについて入学志願者数が募集人員の2倍を上回る場合は、当該主専攻プログラムにおいて2段階選抜（後述、「4. 2段階選抜について」参照）を実施することがあります。

(1) 配点

学 科	主専攻プログラム	書類審査	小論文	面 接		合 計
				適性	基礎学力	
工学科	全ての主専攻プログラム	100	100	100	100	400

上記の配点で、合計点が240点以上である者（ただし、基礎学力の評価が60点に満たない者を除く。）を対象に合格者を決定します。

(2) 書類審査

活動報告書に基づいた自己推薦書の記述内容から、勉学意欲・関心、志望動機、主体性などを評価し、点数化します。

(3) 小論文及び面接

小論文及び面接を行って評価し、点数化します。

なお、面接では、活動報告書、自己推薦書及び小論文の内容に関する質疑応答から適性を評価し、口頭試問により基礎学力を評価します。

- ・小論文について

試験当日に与える課題に対する小論文を課します。

- ・面接（適性）について

受験者から、自己推薦書の内容に基づいて、口頭によるプレゼンテーションを実施してもらいます（5分程度）。次に、面接員から、活動報告書、自己推薦書及び小論文の内容について質問し、思考力、勉学意欲、志望動機、主体性などを評価します。

- ・面接（基礎学力）について

基礎的な学力を口頭試問により評価します。

学 科	主専攻プログラム	口頭試問の内容
工学科	機械システム工学プログラム	数学(※1)
	社会基盤工学プログラム	数学(※1)
	電子情報通信プログラム	数学(※1)
	知能情報システムプログラム	数学(※2)、英語
	化学システム工学プログラム	化学、英語
	材料科学プログラム	数学(※1)、英語
	建築学プログラム	英語
	人間支援感性科学プログラム	数学(※3)
	協創経営プログラム	数学(※3)

数学の出題範囲は、以下のとおりです。

- ※1 機械システム工学プログラム、社会基盤工学プログラム、電子情報通信プログラム及び材料科学プログラムにおいては、数学Ⅰ・数学A及び数学Ⅱ・数学Bとします。なお、数学Bの出題範囲は、「数列」及び「ベクトル」とします。
- ※2 知能情報システムプログラムにおいては、数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B及び数学Ⅲとします。なお、数学Bの出題範囲は、「数列」及び「ベクトル」とします。
- ※3 人間支援感性科学プログラム及び協創経営プログラムにおいては、数学Ⅰ・数学A及び数学Ⅱとします。

4. 2段階選抜について

各主専攻プログラムについて、入学志願者数が募集人員の2倍を上回る場合は、当該主専攻プログラムにおいて2段階選抜を実施することがあります。その場合、書類審査により第1段階選抜を行います。募集人員の2倍を目安に第1段階選抜の合格者を決定し、その合格者に対して、第2段階選抜として小論文及び面接を実施します。

最終的な合格者は、書類審査、小論文及び面接の配点の合計点が240点以上である者（ただし、基礎学力の評価が60点に満たない者を除く。）を対象に決定します。

5. 学生募集要項の公表

平成31年（2019年）5月下旬に公表する予定です。